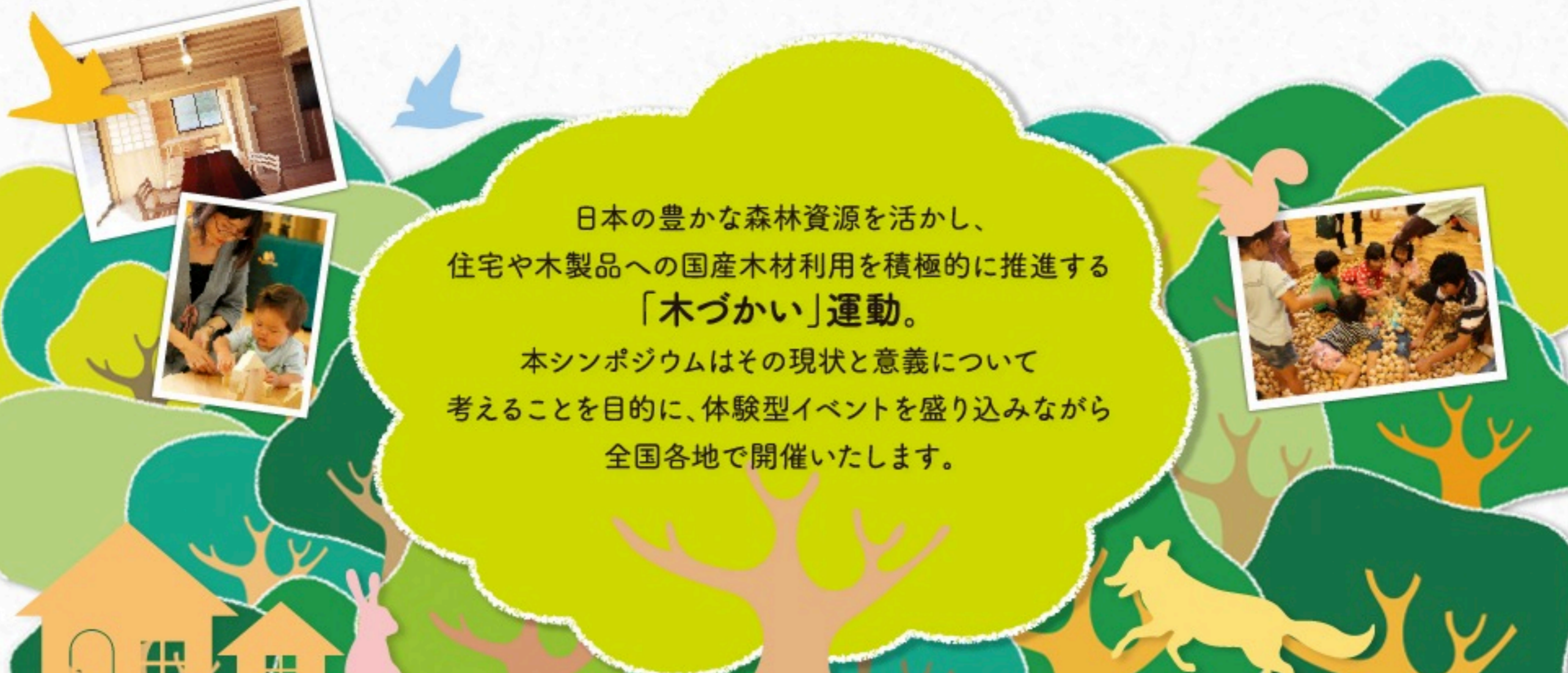


木を使うと、暮らしが変わる。地域が変わる。

参加費無料

もり まちと森林をつなぐ 木づかい全国キャラバン



日本の豊かな森林資源を活かし、住宅や木製品への国産木材利用を積極的に推進する「木づかい」運動。本シンポジウムはその現状と意義について考えることを目的に、体験型イベントを盛り込みながら全国各地で開催いたします。

木づかいとは...

日本では、国産木材があまり使われていません。このため、手入れが行き届かない人工林(ヒノキ、スギなど)が全国的にみられます。植える、育てる、収穫する、上手に使うというサイクルがCO2をたっぷり吸収する元気な森林をつくるのです。「木づかい」とは、暮らしに国産木材の製品をどんどん取り入れて森林を育てるエコ活動です。林野庁は2005年度から「木づかい運動」を推進しています。



同時開催「木づかい」体験イベント

「東京おもちゃ美術館」が、あなたの町にやってくる!

参加費無料 申込不要

木育おもちゃキャラバンコーナー | 開催地域や地元大学とのコラボレーション | その他 木材利用に関する企業ブース

木づかい全国キャラバン 開催場所・日程

第1回 徳島県 6/6 (土)	第2回 岡山県 6/27 (土)	第3回 北海道 7/5 (日)	第4回 大阪府 7/11 (土)
第5回 宮崎県 7/25 (土)	第6回 岐阜県 8/1 (土)	第7回 Coming Soon	第8回 Coming Soon

開催概要 第六回 岐阜県「まちと森林をつなぐ木づかい全国キャラバン」

木材・森林・環境分野に携わる専門家や、木材を使って様々な可能性にチャレンジしている企業・団体が参加。森林再生と地球温暖化防止にもつながるライフスタイル・地域社会の在り方を考えます。また、親子で参加できる体験イベントも開催します。

- 日時 8月1日(土) 受付開始:13:00 開催時間:13:30~17:30(予定)
- 会場 じゅうろくプラザ [Map](#)
- 定員 500名(事前申込制/先着順)

シンポジウム開催概要

ご挨拶	林野庁/岐阜県
基調講演	「森・里・川の連続一人と森のつながりが未来を創る」 /岐阜県立森林文化アカデミー 学長 涌井 史郎氏
ミニコンサート	「山と清流のミニコンサート」 豊かな山と清流の映像を背景にした、ヴァイオリンとピアノのアンサンブル /バイオリニスト 井上 綾子氏 ピアニスト 前山 千尋氏
「木づかい」先進事例発表	「飛騨の木工文化から、日本の森とモノ作りを支える取組み」 /飛騨産業株式会社 代表取締役社長、協同組合飛騨木工連合会 代表理事、日本家具産業振興会 理事 岡田 賢三氏 「国産材で東京を支える仕組み」 /株式会社グリーンマム 代表 川畑 理子氏 「木材利用の価値とこれからの可能性」 /名古屋大学大学院 生命農学研究所 生物圏資源学 専攻教授 佐々木 康寿氏
特別トークセッション	「木を使うと、暮らしが変わる。地域が変わる。」 ～木材利用の価値とこれからの可能性～ コーディネーター：涌井 史郎氏 パネリスト：金子 一弘氏(協同組合東濃地域木材流通センター 木KeyPoint(キーポイント) 代表理事)、鈴木 和雄氏(株式会社東海木材相互市場 代表取締役社長)、岡田 賢三氏、川畑 理子氏、佐々木 康寿氏
木育おもちゃキャラバン	「木づかい」体験イベント 木育おもちゃキャラバン 木のぬくもりや香りを感じながら、想像力をふくらませて遊ぼう! 【開催日時】8月2日(日) 10:00~16:00 ※木育おもちゃキャラバンのみのご参加はお申込不要(参加費無料)です。 ※シンポジウムの開催翌日になりますのでご注意ください。

プロフィール



岐阜県立森林文化アカデミー 学長 涌井 史郎氏

都市と自然の間わりにおけるランドスケープデザイン作品を数多く手がけ、また、「豊・地球博」の会場演出総合プロデューサーを務めた実績を持つ。林業、山村の活性化、木工、木造建築、環境教育、里山などのスペシャリストを養成する森林文化アカデミーの学長を務める。



飛騨産業株式会社 代表取締役社長、協同組合飛騨木工連合会 代表理事、日本家具産業振興会 理事 岡田 賢三氏

豊富な森林資源と飛騨の匠の伝統を受け継いだ職人を基に創業した家具製造会社・飛騨産業の代表取締役社長に2000年より就任。同社は「HIDA」を中心とするスキルの取り組みが「地域資源活用事業」として認定されるなど、高い技術力、品質、デザイン力が国内外で高く評価されている。



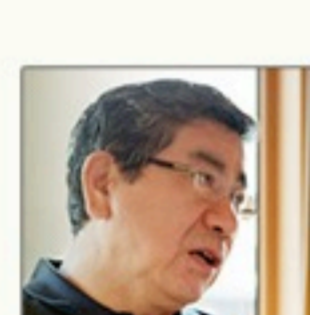
株式会社グリーンマム 代表 川畑 理子氏

長女の誕生をきっかけに、「本当に安心で安全な木製品とは何か」と考え国産材、認証材で作った玩具の販売や、飲食店の内装への国産材使用など国産材の活用に取り組みが「地域資源活用事業」として認定されるなど、高い技術力、品質、デザイン力が国内外で高く評価されている。



名古屋大学大学院 生命農学研究所 生物圏資源学 専攻教授 佐々木 康寿氏

木材・木質材料の構造利用や木質による都市環境デザインなどを専門とし、「都市の木質化プロジェクト」を手掛ける。鈴二目目のストリート・ウッドデッキや長者町通りのおもてなしベンチ設置など、「木を利用したまちづくり」「都市・居住空間の木質化」に大学院生とともに取り組んでいる。



協同組合東濃地域木材流通センター 木KeyPoint(キーポイント) 代表理事 金子 一弘氏

「東濃検」を中心に、厳選された地域木材を集荷・販売。木材の達人と活気あふれる若いスタッフが日々「木材の振興」に力を注いでいる。また、キーポイントでは省エネルギー木造住宅の提案を行い、地域材利用の魅力と可能性を伝えている。



株式会社東海木材相互市場 代表取締役社長 鈴木 和雄氏

東海地域最大級の木材市場であり、木材業者を対象にした情報発信サイト「木産にゅっと」の運営も行う。名古屋木材組合長も務め、名古屋城本丸御殿の復元資材調達への協力など地元での木材利用の拡大に尽力。

お申し込み締切 平成27年7月31日(金)

【注意事項】

※本シンポジウムは事前申込み制となっており、事前申込みのないお客様は、当日ご入場いただくことができません。観覧ご希望のお客様は、FAXもしくは申込みフォームより事前の申込みをいただけます。お問い合わせください。
※先着500名で申込みを受付けます。招待状1通につき、1名様のみご観覧いただけます。複数人をご参加希望の方は、お一人ずつ申込みをさせていただきますようお願いいたします。
※本シンポジウムは、登録講演者、特別トークセッションまで一連のプログラムになっており、一部希望の方のみのご参加はご遠慮下さい。
※万一、お申し込み登録完了後も招待状が届かないようでしたら、シンポジウム事務局 03-5226-9953(平日10時~17時)までご連絡下さい。
※先着500名様には、順次申し込みいただいたFAXまたはメールアドレスに招待状をお送りします。当日必ずお持ちください。
※お預かりした個人情報は、本シンポジウムのために利用させていただきます。当日必ずお持ちください。
※発表内容は変更となる場合があります。予めご了承ください。

同時開催「木づかい」体験イベント 木育おもちゃキャラバン

参加費無料 申込不要

木のぬくもりや香りを感じながら、想像力をふくらませて遊ぼう!

「東京おもちゃ美術館」からやってくる、たくさんの上質な木のおもちゃで思い切り遊べる「木育おもちゃキャラバン」。

さまざまな木材の色や香り、手触り…楽しみながら木や森林のこころを感じられるまたとない機会です。お子様連れでも是非ご参加ください。

終了 第一回 徳島県 「まちと森林をつなぐ木づかい全国キャラバン」 当日のチラシはこちら

シンポジウムの講演者、テーマ等詳しく変更する可能性があります。予めご了承ください。お問い合わせは、下記までご連絡下さい。

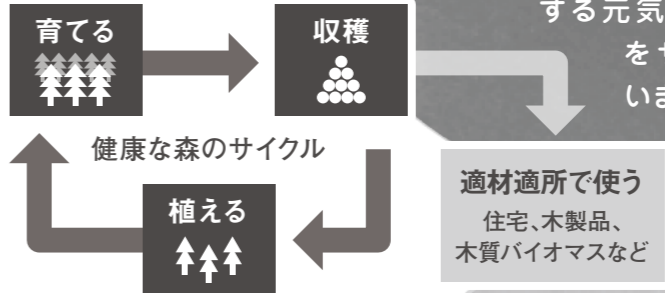
読売エージェンシー「まちと森林をつなぐ木づかい全国キャラバン」事務局
電話: 03-5226-9953 FAX: 03-5226-9929(平日10時~17時)
Eメールアドレス: symposium@yomiuri-ag.co.jp
ホームページ: <http://www.yomiuri-ag.co.jp/kizuka/2015/>

報道関係者お問合せはこちら
広報事務局 担当:小林(株式会社フリーマン)
電話: 03-5280-1356 FAX: 03-5280-1357
Eメールアドレス: symposium@freeman-pr.com

みんなの木づかいで、 明るい未来へ。

木づかいとは…

国産木材の利用が進めば、その収益により間伐などの整備が行われ、森林が元気になります。暮らしに国産木材製品を積極的に取り入れる「木づかい」は、「木を植える、育てる、収穫する、上手に使う」というサイクルを回すためのエコ活動。CO₂をたっぷり吸収する元気な森林づくりをサポートしています。



ご存知ですか。木を「使う」ほど、森林は「育つ」。

日本の豊かな森林が、いま、木材の収穫期に入っています。また、間伐などで伐採された木を使うことで、森林の健康を守ることが今、求められています。そうした中、推進されているのが「木づかい運動」。住宅や木製品に国産木材を積極的に使うことで、大切な森林を健やかに育てる取り組みです。いま、全国で「木づかい」の意義を考えることを目的に、「まちと森林をつなぐ木づかい全国キャラバン」が展開されています。

木づかいレポートその1

まちと森林をつなぐ 木づかい全国キャラバン in 岐阜

2015年 8月1日(土)
じゅうろくプラザ

基調講演

「森里川の連続」 人と森のつながりが未来を創る」



岐阜県立森林文化アカデミー 学長 涌井史郎氏

森林は我々の生活と深く結びついて、国民の生活と経済の安定に欠くことのできない緑の社会資本です。森林が元気をなくしてしまえば、国内の木材は、潜在的な供給率が高いにもかかわらず、利用量が極めて少ない。しかし、木材の生産機能のみをクローズアップしては、山が疲弊する現状を打開することはできません。元来日本人には、自然の暮らしを基礎とした思想があり、農業生産空間に多様な価値を見出されてきました。現代の我々も、水循環機能、国土保全のための防災機能、生態系の保持機能といった多面的な機能をしっかりと捉えながら、持続的な健全性を実現していくべきです。それは、林業関係者や森林所有者だけの努力ではなく、多面的な森林に対して責任を持って関わる森林のスペシャリストアカデミーは岐阜県と協力し、30年ビジョンにおいて、森林に対して責任ある行動を取る人を長き



ランドスケープデザイン作品を数多く手がける「愛・地球博」の会場演出総プロデューサー。

「木づかい」先進事例発表

「飛騨の木文化から、日本の森とモノ作りを支える取組み」

飛騨産業株式会社 代表取締役社長 日本家具産業振興会 理事 日本家具産業協会 代表理事 岡田 賢三氏

飛騨産業は、平安時代の神代紙に名高い飛騨で創業し、今年95年目を迎えました。それまで捨てられていた「節」のある木を使った家具、森のことはシリーズを契機に、飛騨で生まれた木材をより有意義に活用する道を探ってきました。その中で着目したのが純国産固有種であるスギ材です。スギは木目が均一で美しい反面、節が多く柔らかすぎるといった欠点がありました。三次元圧縮や当社独自の曲げ木の技術を使い、これまでもスギの利用について試行錯誤を繰り返してきました。こうして完成したのが柱目美しく見せる圧縮技術を活かした「スギ」です。

「国産材で東京を支える仕組み」

株式会社グリーンマテ 代表 川畑理子氏

地球上では今、1秒間にサッカー場1つ分の森林がなくなっています。この森林破壊にストップをかける為、我が国は国産材の自給率を高め、達成しなければなりません。私どもでは創業以来、持続可能な森林経営の証である「FSC森林認証証」をはじめ、国産材の利用を推進し、国産材の活用をお手伝いしてきました。当初はおもちゃへの利用からスタートし、現在は店舗や施設にまで、幅広く国産材利用を提案しています。東京都市部をはじめ、全国に多店舗を構える「スナックストロベリー」では、2009年以降ほぼすべての内装に国産材を使っ

「森林と都市の再生をめざす都市の木質化プロジェクト」

名古屋大学大学院生命農学専攻 教授 佐々木康寿氏

需要を過かに上回る日本の森林資源量。木材利用の拡大は待たない状況です。都市部ではコンクリートの無機質な空間が広がっている。生活空間を豊かにする目的で、都市の木質化を推進する。都市の木質化プロジェクトは、日本の森と都市の課題を都市の木質化で同時に解決する道筋を探求しています。セミナーやシンポジウムを通じて、生産者と事業者の交流と相互理解を図る。大学生を対象に木材で都市をリノベーションするワークショップを開催する。こうした活動を展開する中、ある社会実験にも参加しました。鎌田自の長者



木質環境デザインを専門とし、ベンチ設置など「都市の木質化プロジェクト」を手掛ける。

特別トークセッション

「木を使うと、暮らしが変わる。地域が変わる。木材利用の価値とこれからの可能性」

コーディネーター 涌井史郎氏 パネリスト 金子一弘氏(協同組合東濃地域木材流通センター 代表理事)、鈴木和雄氏(株式会社東海木材相互市場 代表取締役社長)、岡田賢三氏、川畑理子氏、佐々木康寿氏



岡田賢三氏(圧縮技術によるスギ活用は邪道じゃない)

スギ活用は邪道じゃないかという人もいます。でも、板前さんが魚のアラも骨もきちんと美味しく料理するように、木材も料理の仕方次第でその利用にはさまざまな可能性が拓けてくるのではないのでしょうか。

金子一弘氏(木質材料の物性をきちんと理解し、適材適所で使いこなす)

技術も必要です。ドイツや北欧の工事現場を視察すると、これが実現できている。材料メーカーの工法にこだわるだけではなく、「材料の特性を活かしていか」を使うか」というレクチャーも提案しています。

佐々木康寿氏(「東濃松」を中心に、厳選された地域木材を有効活用)

「東濃松」を中心に、厳選された地域木材を有効活用。木材の振興に力を注いでいる。

涌井史郎氏(岐阜県では、清流の国ぎふ憲章のもと、来る10月11日に全国育樹祭を開催する)

取り組んでいるところ。森林を大事にする気持ちで、木づかいを広げていきたいですね。

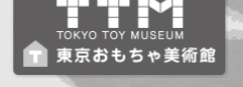
木づかいレポートその2

木育おもちゃキャラバン 8月2日(日)

シンポジウム翌日、大ホールには親子で遊べる木のおもちゃスペースや県の木育推進協議会と連携したワークショップなどが大集合。多くの方に越えただきました。

「東京おもちゃ美術館」がやってきた!

東京おもちゃ美術館から、国産木材を使った質の高いおもちゃが勢揃い。ケン玉やコマ、積み木やパズルなど、木のおもちゃの温もりに触れて、遊んで、楽しんで。多くのお子さんの笑顔と笑い声が、会場中にあふれました。



全身で遊ぶ、楽しい木の遊具に熱中!

木の玉でできたボールや木製のピンボールゲームなど、珍しくて楽しい遊具もたくさん登場。学生ボランティアと一緒に体と五感をフル稼働させながら熱中して遊ぶお子さんの姿に、木の力を実感しました。



木のある暮らしの楽しさ、喜びを再発見!

木の香りに包まれた会場内では、おもちゃや遊具とともに、森林資源の大切さや木製品の良さを伝えるコーナーやワークショップも開設。木のある暮らしの素晴らしさを改めて感じたご家族も多かったようです。

